

平成27年11月24日（火）

平成27年度生涯学習振興・社会教育関係職員等研修
【施策立案研修】個人演習発表

みんなでワイワイと楽しく
主催事業年間計画を
作ってみよう

所属 廿日市市平良市民センター
名前 山本和夫

はじめに

□ 発表の要旨

- 成果物がある職員研修
- 業務の流れと連動
- 無理なく参加型学習を取り入れる

そのために

- …… 同じ研修を地域別に少人数で開催する。
- …… ベテラン職員と経験の浅い職員がペアになりピアサポートの手法を取り入れる。

□ 発表の流れ(目次)

- ① 対象者と目指したい姿
- ② 取組の趣旨・ねらい
- ③ 実施体制
- ④ 取組の説明
- ⑤ 成果・効果
- ⑥ 今後の展望
- ⑦ おわりに

対象者と目指したい姿

□ 対象

市民センター職員

□ 目指したい姿

地域課題を解決できる学習プログラムを
企画立案できる市民センター職員を目指す。

(事業・研修計画書 項目2)

取組の趣旨・ねらい

□ 課題の整理

協働のまちづくりに取り組んでいる本市は、各地区で課題としていることについて、住民同士が話し合い、学び合うことを通じて解決に向けて取組を進め、市民センターがその拠点となる役割を担っている。

ひとり職場と言える市民センターで多様な学習機会の提供に取り組んでいる中、さらに地域課題の解決に向けた学習が深まるような効果的な主催事業を企画立案をするため、参加型学習の職員研修をとおして、職員の個々の力量を高め、職員が参加型学習の必要性に気づき、ファシリテーションの基本やワークショップの手法を学びたいと思うようになるようにする。

(事業・研修計画書 項目3)

取組の趣旨・ねらい

□ 課題の整理

そのため、この職員研修では、日々の仕事に活かされるように、市民センター業務の流れと連動させていくような工夫をする。

また、広島県立生涯学習センターが実施する研修、社会教育主事講習などへ参加したことにより習得した知識・スキルを研修をとおして他の職員と共有し、さらに仕事の中で実践することで確かな力とする。

実施体制

施策立案研修

演習(職員研修)

連携

廿日市市自治振興部地域政策課

職員研修

研修

廿日市市市民センター連合会

- ・所長部会
- ・職員部会(研修会)

(事業・研修計画書 項目7)

取組の説明

○取組の概要

平成28度の主催事業年間計画の
企画を立案する。

(事業・研修計画書 項目4・5)

取組の説明

市民センター主催事業一覧表

月	領域	対象	事業名	ねらい・ 主な内容	時間	回数	人数

(事業・研修計画書 項目4・5)

取組の説明

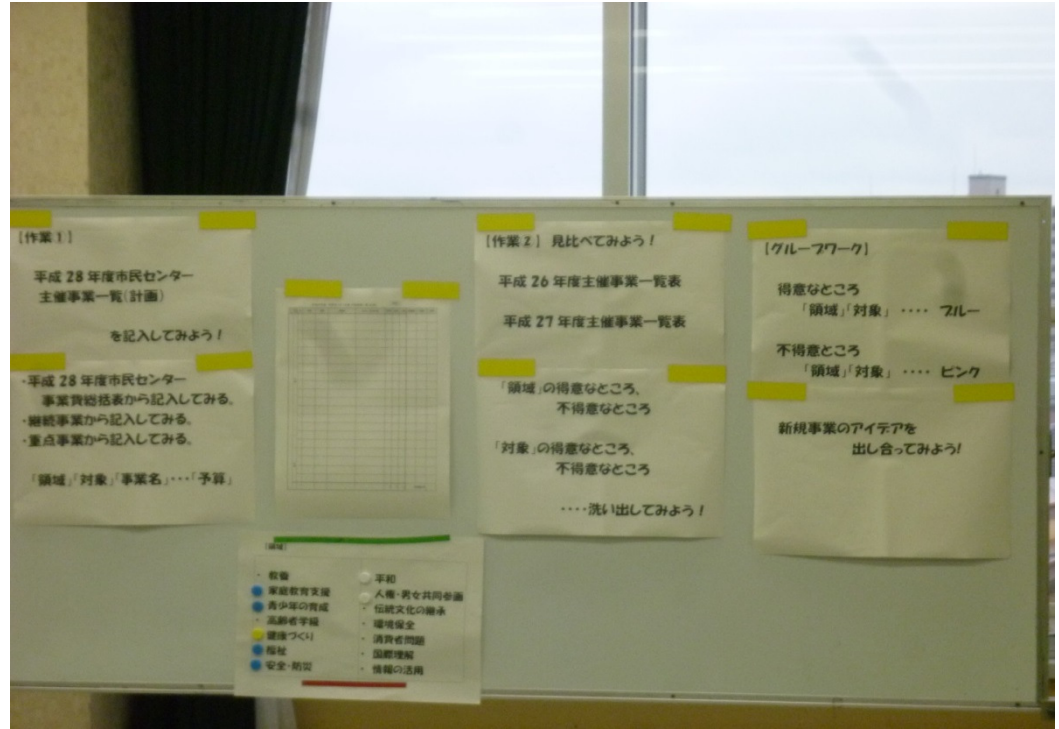
平成26年度 市民センター主催事業一覧（まとめ）

市民センター	月	領域	対象	事業名	ねらい・主な内容	時間	回数	人数
平良	5 3	家庭教育支援	乳児と保護者	平良っ子ベビー	歌や踊り絵本の読み聞かせなどをとおし、子どもへの愛情を深め、育児相談で育児の不安を軽減することができる。	40	20	310
	5 3	家庭教育支援	乳幼児と保護者	親子体操	親子で体操することで、子どもとのスキンシップを図り、子どもへの愛情を深めることができる。	74	37	1,884
	8 1 1 2	家庭教育支援	子どもと保護者・一般	子育てセミナー	家庭教育のスキルを学び、そのスキルを使って親と子の絆を深めることができる。	10	5	161
	5 3	青少年の育成	小学生	平良っ子学級	次世代の地域のまちづくりの担い手となるために、子どもたちが地域を知り、子どもたちのコミュニケーション能力を伸ばし、自主性・自立性を育む。	25	11	361
	8 1 1 2 3	青少年の育成	小学生	のびのびへらキッズ	次世代の地域のまちづくりの担い手となるために、子どもたちが地域を知り、子どもたちのコミュニケーション能力を伸ばし、自主性・自立性を育む。	17	7	81
	5 3	高齢者学級	高齢者	大学セミナー	高齢者自身の自主性を高め、地域社会の活動に積極的に参加する。	24	10	411
	10 1 1 3	高齢者学級健康づくり	中高齢者	シニアライフ講座	充実した毎日を送るために学んだことを仲間と継続することができる。	13	5	84
	4 5	健康づくり	一般成人	あなたの健康を守る講座	こころとからだの健康管理意識を向上させ、生活習慣病やメンタルヘルス不調などの問	12	6	82

)

取組の説明

第1回 11月	初めての職員もベテランの職員もお互いの知恵を出し合い、主催事業年間計画をみんなでワイワイ作ってみよう。	どのような主催事業が、自館に必要なのかを自ら見つけ出す。 (地域別に開催する。)
第2回 12月	主催事業年間計画を参加職員にプレゼンする。各館ごとに質疑と建設的なアイデアなどの意見交換をする。	プレゼンで説明することにより学習プログラムを具体的にイメージできるようになる。
第3回 2月	講義 「参加型学習の必要性について」 グループワーク 「参加型学習を取り入れた学習プログラムを考えてみる」	参加型学習の必要性に気づき、ファシリテーションの基本やワークショップの手法を学びたいと思うようになる。
第4回 4月	新年度の職員で昨年度企画立案した主催事業年間計画を実践できるように、みんなでワイワイ言いながらブラッシュアップする。	ブラッシュアップする過程で学習プログラムを具体的にイメージできるようになる。



第1回(11月)の研修の様子

成果・効果

【成果】

○成果物がある研修

→ 主催事業年間計画を作成できたか？

○業務の流れと連動

→ 業務の締切に合わせて進行したか？

○無理なく参加型学習を取り入れる。

→ 1つでも参加型学習を取り入れられたか？

【効果】 ピアサポートの態勢はできたか？

(事業計画書 項目6を踏まえて)

今後の展望

項 目	時 期
主催事業年間計画の作成研修（第1回）	11月
主催事業年間計画の報告と共有（第2回）	12月
参加型学習について（第3回）	2月
主催事業年間計画の ブラッシュアップ研修（第4回）	次年度 4月～5月

（事業計画書 項目8）

おわりに

現在、企画した研修を開催している最中で、第1回目を実施し、2回目・3回目の研修内容の細かいところを修正しているところです。

この研修は、年度をまたいで実施することにも意味があるので、平成28年度の第4回目の研修も開催できるように進めていきたい。